

第 4 回協働型災害訓練 in 杉戸

杉戸町富岡町川内村地域間共助推進協議会(主幹:NPO法人すぎとSOHOクラブ、同法人NPO埼玉ネット)は、市民キャビネット災害支援部会、同スマートICT部会、立正大学地球環境科学部との共催で、平成 29 年 2 月 3 日(金)~4 日(土)、杉戸町において、「第 4 回協働型災害訓練 in 杉戸」を開催しました。

東日本大震災の経験と教訓を生かすべく、平成 25 年度国土交通省広域的地域間共助推進事業としてスタートした「協働型災害訓練」。大規模災害時には一人でも多くの命を助けるために、効率と統一された災害対応が必要になります。

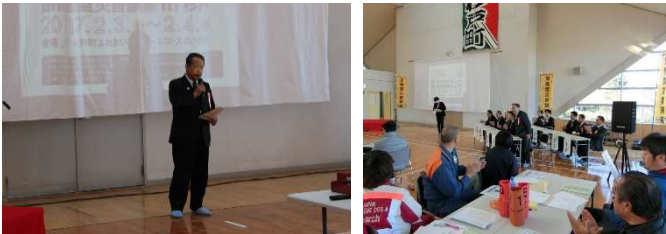
この訓練では、米国で誕生した災害版 ISO と呼ばれる ICS (Incident (現場) Command (指揮) System (システム)) を用い、将来発生し得る大規模災害発生時に即時助け合いの対応ができる仕組みをつくることを目指しています。

今回は 4 回目の開催として、これまでも行われてきた ICS を活用した図上訓練のほか、昨年 4 月に発生した熊本地震における支援活動報告、ドローンを使用したデモンストレーションも行われました。

<開会式>

主催・来賓を含め 12 名もの方にご出席いただきました(古谷杉戸町長、滝沢富岡副町長、猪狩川内副村長、鈴木衆議、三ツ林衆議、古川参議、関口参議、岡県議、白土県議、榎本宮代町長、坪田杉戸議長、関根さいたま市議)。

来賓の他にも埼玉県危機防災管理課、杉戸警察署からも見学があり、年々高まるこの訓練に対する関心の高さが伺えました。



<熊本地震支援活動報告 1 >

これまでの訓練で ICS を学び、熊本地震で活躍した団体からのレポート。

九州救助犬協会の坂本さんからは二次被害を防ぐ大切さを、MMIXLAB の村上先生からは八代市に前線基地を作り支援にあたった報告を頂きました。



<アイスブレイク>

今回初めてトライした「きづな引き」。

ただの綱引きでしょ？と思うなかれ、これが熱く、そしてしんどいw。

その場で結成したチームにも関わらず、若手からベテランまでが一生懸命。すごい熱気でした！



<シェアリングタイム>

地域医療と熊本での活動を報告してくださったお二人からのシェアリング。

地域の力はコミュニティデザイナーにあり！をすすめる東埼玉総合病院の中野医師、熊本地震で実際に薬剤師支援をした SFC 薬局の関谷薬剤師さんありがとうございました。



<ICS を活用した DIG (図上訓練) >

監修・指導を頂いている立正大学後藤教授によるチェックインタイムから。

訓練では ipad を多用し、訓練時のアクションをその場でレコーディングする試みを実行。

そして今回も福島県富岡町・川内村からも多くの職員が参加してくれました。

さらに今年からは埼玉県危機防災管理課・杉戸警察署からも参加があり、来年もぜひ参加したとの声を頂きました。



<番外編>

訓練の終わりには、4月から避難解除が行われ新しい一歩を踏み出す富岡町滝沢副町長自らから現場レポートを伝えてくださいました。



2日目のふりかえり

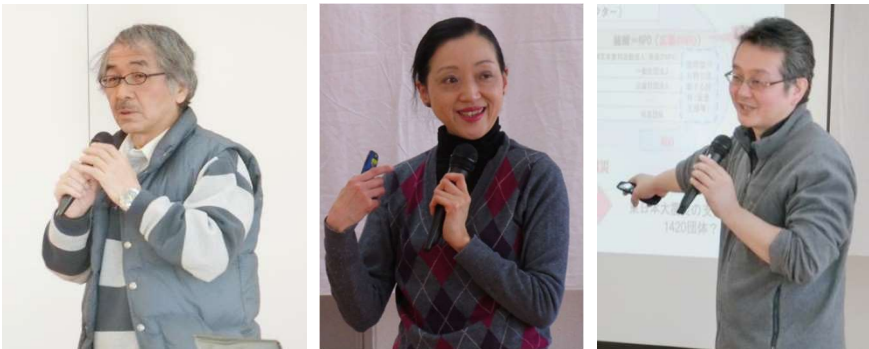
<熊本地震支援活動報告2>

岩手県大槌町で「復活の薪」で復興支援をしている吉里吉里国の横路さんのお話からスタート。

そして、マイクロソフトが杉戸町にやってきた！龍治さんから同社のミッション「いついかなる時も」を忠実に実行し、熊本地震の際にオフィス365を無償提供した支援レポート。

JVOAD 明城さんからは同地震で支援NPOをまとめてみると見えてきたことをフィードバック。

小澤主査からは杉戸町でも誰にも知られていない熊本支援があり、熱意と行動力で物資を届けた出来事を報告。



<シェアリングタイム2>

総務省関東総合通信局から会場にも展示をしているLアラート（災害情報共有システム）について幾田室長自ら解説。

東洋大学八木准教授からは広島豪雨災害で見えてきた被災地の福祉的視点についてのシェアリング。



<エクスペリエンスタイム>

お待ちかねのドローンの飛行実演。

今回は立正大学後藤研究室のドローン班と株式会社測設の酒井さん、全日本救助犬協会がコラボし、救助犬活動の様子をドローンで撮影するという試み。



さらに、高度 50m から撮影した 40 枚の写真から会場建物を 3D 化アクションにトライ。上映時、会場ではどよめきが起こりました (3D 画像はこちらからご覧いただけます (<http://bit.ly/2lqtpXh>))。



<HUG>

市民キャビネット上村講師による避難所運営ゲーム。

今年は杉戸町自主防災組織の方も参加して各班でチームワークを発揮していました、さすが支援のプロたちです。



<プロポーザルワークショップ>

最後は2日間の振り返りも兼ねて各班でワークショップを行いました。

またこの場で会いましょう！という発表をした班もあり、この訓練が「つながる場」であることを印象付けるものでした。



<<最後に>>

これからは地域に根ざしていくことと、
私たちが目指す後方支援自治体の取り組みを広げて行くこと
に注力していきたいと思えます。

次回第5回の訓練のキーワードは「脱皮」。

協働型災害訓練は新しいステージへ参ります！！

引き続き皆さんのご支援とご協力、そしてご参加をよろしくお願いいたします！！

(杉戸町富岡町川内村地域間共助推進協議会 豊島)